Institute of Human Culture Studies Otsuma Women's University

# ewsletter



**CONTENTS** 

発行●大妻女子大学人間生活文化研究所



人間生活文化研究所のめぐみ	1
協賛企業	1
2019 年度科研費新規採択者の紹介	2
科研費新規採択課題の紹介	2
お知らせ	2
人間生活文化研究所「特別研究員」の紹介	4
電子書籍「Otsuma eBook」 ······	6
オンラインジャーナル『人間生活文化研究:	
nternational Journal of Human Culture Studies』	8
シリーズ「特別研究員 (Senior researcher) -研究成果の紹介」11	0

## 人間生活文化研究所のめぐみ

「大妻女子大学人間生活科学研究所」 が創設されてから38年が経過した。 始めは家政学系の研究基盤を強化する 組織として1981年(昭和56年)に設 立されたと聞く。その後の27年間とい う時代の変化とその要請に対応するた め、研究所は名称を変え、2008年に改 組された。そのねらいは自然科学から 「生活の学」全域に範囲を広げ、「大 妻女子大学人間生活文化研究所 | とな り新しく生まれ変わった。

その活動は、研究費助成事業、競争 的外部資金の獲得支援事業、電子出 版事業 (eBook、オンラインジャーナ ル「人間生活文化研究: International Journal of Human Culture Studies J 2012年6月創刊)、さらに研究員・研 修生の生受け入れ、産学共同研究、国 際学術研究・協力・交流と多彩にあり、 研究の推進及び継続サポート、本学以 外へと社会的視野をひろげ進化を続け ている。

このような研究所との関わりを、こ

の機会に顧みたい。改組されてその活 動が周知された頃の2011年に、「進 化するグローバル・ウーマン像 一時 代の求める人材と大学キャリア教育 との関わり」研究プロジェクトが採択 された。共同研究者は文学部、人間関 係学部、短期大学部、大学院生で構成 し、国際社会の求めるグローバル・ ウーマン像を明らかにし、大学カリ キュラムの改善点を指摘し、国際性に すぐれた人材を輩出することで社会 に貢献することを目指すものであっ た。2012年に講演会を研究所の支援 を受けて実施。「女性が社会で活躍す るということ | 講師:岩田喜美枝(元 資生堂副社長.当時·日本航空社外取 締役)。また、2012年、2013年と東日 本大震災復興チャリティーコンサート (英 国St. John's College,Cambridge と Eton Collegeの聖歌隊) の支援もして いただいた。2014年には「教育界のグ ローバル化とレクチャラーの英語力の 養成を目指す教授媒介としての英語研

究」に助成を受けた。本プロジェクト では、社会に求められるグローバル人 材を養成する英語教授法として、英国 オックスフォード大学で2014年4月 に開発されたEnglish as the Medium of Instruction (EMI) の導入の可能性を模 索した。5年間の経過はあったものの、 昨年夏にEMIプログラムが千代田区 近隣大学コンソシーアムの事業として 実施の日の目をみることとなった。こ のような研究にも人間生活文化研究所 の支援が継続的にあったおかげであっ た。研究所の度量豊かで、人間生活文 化という原点に立ち戻る方針は、先行 が見えずAIが活躍する社会にあって こそ、その価値を大きく顕わにするで

あろうことが期 待される。



井上 美沙子

【協替企業】 人間生活文化研究所の事業は、多くの企業の皆様からご支援いただいています

> 前田建設工業株式会社 清水建設株式会社 ダイダン株式会社 株式会社三井住友銀行 株式会社九電工

山崎製パン株式会社 株式会社オンワードホールディングス 三菱地所株式会社 株式会社オカムラ キユーピー株式会社

東京ケータリング株式会社 株式会社内田洋行 SMBC 日興証券株式会社

(順不同、2019年12月現在)

## 2019年度科研費新規採択者の紹介

2019年7月以降に新規で採択された方は 以下のとおりです。おめでとうございます!

研究活動スタート支援 桶田敦 文学部教授 関本 紀子 文学部講師

## 科研費新規採択課題を紹介します

科学研究費助成事業(学術研究 助成基金助成金/科学研究費補助 金) は、人文・社会科学から自然科

学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる 「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に 発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピ ア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対 する助成を行うものです。(日本学術振興会ホームページ より)

2019年度、本学では、新規採択課題17件を含む49件が採 択されております。

下記より2019年度 採択課題全49件のうち4件の研究内 容についてご紹介します。

#### ■お知らせ



#### 科研塾開催日程

2020年度 科研塾開催日が決定しました

#### 第1回 4月7日(火)10時30分より

この講座では科研費採択に向けた学内競争的資金の活 用や、人間生活文化研究所が運営するオンラインジャ-ナルへの投稿、電子書籍の出版など大学における研究活 動PDCAについてお伝えします。

#### 第2回 7月2日(木)16時30分より

例年、次年度科研費の募集は9月1日に公表され、申請書 の学内締切は10月中旬になります。この講座では、7月か らの2カ月間、研究計画調書をどのように作成していく かについて具体的なモデルを紹介します。

#### 第3回 9月23日(水)16時30より

研究計画調書の学内締切を間近に控えた時期です。日本 学術振興会が示す「申請にあたっての変更点」などをお 伝えします。

#### 開催場所

大妻女子大学千代田校本館 E 棟 1 1 階会議室

(室番は当日同階にて掲示します)

多摩校においてはテレビ会議システムにより開催します (室番は別途ご案内します)。

学内関係者の方々のご参加をお待ちしています。

研究課題 挑戦的研究(萌芽) 2019-2021

## 車両用座席シートの審美的快適性の研究 ―白色化防止座席シート開発への提言―

〈研究代表者〉 平井 郁子 キャリア教育センター

近年、超豪華列車や、超高速列車が 話題となり、多くの革新的な列車が製 作されている。このような豪華列車の 車装内インテリアの美観は、乗客の快 適性を考える上でどうしても切り離せ ないものである。しかし、私たちが毎 日利用する通勤・通学の電車につい ては、安全輸送・大量輸送が優先さ れ、車装内インテリアの快適性は後回 しにされがちである。毎日利用するか らこそ、快適性を重要視する必要があ る。もちろん快適性には、座り心地に 対する座席のクッション性などもある が、視覚からくる審美的な快適性も大 きな位置を占める。車装内インテリア の性能を左右する色彩、特に座席シー

トの色彩は、利用する乗客の疲れを癒 す効果がある。電車の座席に目をやる と、乗客が着座やもたれかかった座席 シートに白色化した部分が見られる。 この白色化した部分が大きくなると経 年劣化が感じられ、車両の審美性に 大きな影響が出てくる。また、審美性 にとどまらず、快適性を支配する座り 心地までも悪く感じられてくる。白色 化した座席シートが乗客の疲れを助 長するか、深みのある色の座席シート で、疲れを癒すかにより、乗客への心 理的効果は大きく異なる。座席シート の快適性を考えることで、利用する乗 客の疲れを癒すことは、社会の活力を 生み出すことに繋がる。

座席シートには多くの場合、衣服と の摩擦に優しく、クッション性のある ことなどからカットパイル織物が用い られている。これまで行った繊維製品 の光学的研究において、カットパイル 織物は、断面と側面では光の反射光量 が異なるが、糸の断面および糸と糸の 間の陰影により、光の吸収・透過光量 が多く、織物に色の深みを与えている ことを明らかにしてきた。これらの研 究成果を座席シートに適用し、白色化 が起こりにくい車両用座席シートの開 発に寄与したいと考えている。

研究課題

研究活動スタート支援 2019-2020

## 福島第一原発事故のリスク報道の伝達と受容に関する 実証的研究

〈研究代表者〉桶田 敦 文学部



2011年3月11日、東北地方太平洋 沖地震と、その随伴事象である巨大津 波によって東京電力福島第一原発事 故が発生しました。いわゆる東日本大 震災です。日本がかつて経験したこと のない未曾有の原子力災害であったこ とから、当初は相当量の報道が放送メ ディアなどで展開されました。8年余 りを経過した今日、東京からのいわゆ る全国ニュースとしてはほとんど扱わ れることが無くなっていますが、「未 曾有の原子力災害からの復興」は、全 国に向けて発信すべき今日的なニュー スなのは明らかです。

本研究では、事故から9年を経た 2020年3月から、2020年東京五輪を 挟んで、2021年3月の、東日本大震災 から10年という節目の1年間に、被災 県である福島と東京などでどのように 「福島第一原発事故」が放送メディア で報じられ、視聴者がどのように受容 したのかを実証的に明らかにするのが 目的です。

今もって残る原発事故のリスクがど のように報じられ、どのような情報格 差が福島と東京などで生じているのか を、それぞれの地域で1年間にわたり、 NHKや民放各局の放送を記録し、そ の報道内容の分析を行います。

また、視聴者の原発事故リスクに関 する覚知に関しては、「高橋信三記念 放送文化振興基金」の支援を受けて、 被災地福島県と首都圏、大阪の3地域 で、2020年3月と2021年3月にそれ

ぞれアンケート調査を実施し、報道の 受容と放射線リスクに関する住民のリ テラシーの差異について比較検討する ことにしています。これまで、東京な ど福島から離れた地域では、住民のリ スク認識は原発事故当時のままで、情 報が上書きされていないことが明らか になっていますが、この事故から10年 という節目で変化があるのかを調査に よって明らかにすることももう一つの 課題です。

本研究は、今後発生すると予想され る首都直下地震や原発事故発生時の リスク報道と被災地復興における報道 のあり方への指針を提供できるものと 考えています。

研究課題研究活動スタート支援

2019-2020

## 度量衡から見る

## ベトナムの植民地統治及び社会構造とその地域性

〈研究代表者〉 関本 紀子 文学部



本研究は、フランスによるベトナム 植民地統治の実態、植民地期ベトナ ムの社会構造 (現地社会の多様な位 相・関係) や地域性について、度量衡 (計量器、計量単位)の観点から分 析・解明するものです。

度量衡は国の政策レベルから人々 の日常生活に至るまで、重要な役割を 担っています。その度量衡を分析の 基軸とすることで、個々人のミクロの 視点から、地域、国というマクロの視 点まで、幅広くカバーし、その見方を 相互に行き来しながら考察すること が可能となります。

度量衡は社会経済史の基本分野で あり、一般的に各国においては多くの 研究の蓄積があります。一方で、東南 アジアにおける度量衡研究は本格的 に進められていません。また、植民地 政権の統治の実態や植民地期ベトナ ムの社会構造(権力の浸透力・影響 力の強さと範囲、ベトナム社会の中で の伝統、慣習と新制度の併存、役割 別の棲み分けなど)については、局地 的・限定的な事例により一般化され るにとどまり、これまで具体的に論じ られてきませんでした。さらに、その 地域性に関しても、植民地政権により 区分された行政区画(北部:トンキン、 中部:アンナン、南部:コーチシナ) の枠組みの中でのみ、異なる研究分 野によって個別に研究が進められて きた現状があります。

本研究課題の核心をなす学術的 「問い」は、十分な根拠を伴わないま ま一般論として語られているベトナ ムの植民地統治や社会・地域構造の 様々な側面に、度量衡から光をあて、 実証的に再検討すること、といえま す。ベトナム一国を同じ比較軸(度量 衡) で検討することで、行政区画の枠 組みを超えた地域構造を明らかにす ることも可能となります。

本研究は度量衡研究、植民地研究 という二つの側面を併せ持つだけで なく、その成果は隣接する様々な学問 分野に対しても広く還元できるもの であると考えています。

研究課題 特別研究員奨励賞(RPD) 2019-2021

## 現代中国における日本のグローバル経済戦略と 広告メディアのジェンダー・ポリティクス

〈研究代表者〉 上村 陽子 文学部(日本学術振興会特別研究員)



近年の中国における日本の化粧品広 告では、女性のイメージが構築される渦 程でグローバル経済戦略が関わってい る。そして、その戦略では従来品や他の ブランドとの差別化を図る過程で美の規 範を再編成する言説が見られる。例えば、 ヘアケア化粧品の広告では「日本の女性 の美しさ」や「東洋美」を強調しており、 このような言説はこれまではあまり見ら れない。また、アジア圏において共通す る黒髪を表象する際に「西洋美」に対す る優位性を強調しながら流通しており、 これは化粧品広告に対して従来指摘され てきた西洋中心主義的な美の規範化とは 異なる議論を提示するものである。本研 究では、こうした広告展開に着眼しつつ、 ジェンダー表象だけでなく、非西洋地域 内のグローバル化の文脈の中でメディ ア・テクストの生産、流通、受容までの 全体像を描き出し、それぞれをめぐって 国境の内外に働くさまざまなポリティク スをジェンダーの視座で明らかにする。

また、本研究ではテクストを消費す る受け手を受動的なものとみなすので はなく、能動的で活動的なオーディエン スとして捉える。先行研究ではアクティ ブ・オーディエンス論の視点から女性が メディアとの関係において言説的制約を 受けつつもそれに抵抗し自主的にメディ アメッセージを消費し生産していく様 相を描き出している。本研究はこの分析 をさらにグローバルとローカルの文脈の 中で検証し、グローバル経済戦略のもと で構築された女性イメージが商業的に 利用される一方、ローカルでは受け手に よる異なる解釈が存在し規範への抵抗 を示しうることを明らかにする。SNSな どを利用して能動的にメディアメッセー ジを生産するオーディエンスを描くこと で、それが規範への社会的抵抗力に繋 がる可能性を提示したい。近年の日本に おいて性役割規範などをめぐる「炎上」 広告も増加しているが、本研究はそれに ついて長期的な議論を実現可能にする ための方法論を提示しうるだろう。

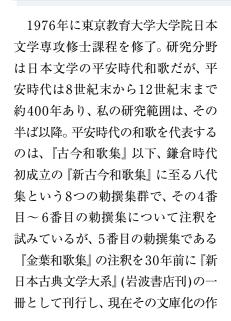
## 人間生活文化研究所「特別研究員」の紹介

当研究所の「特別研究員 | 制度は、平成28年度に新設されました。特に優れた研究業績、高い研究指導力および研 究者としての見識を有し、今後とも卓越した成果を出すことが期待される方を対象としています。ここでは、今年度 新たに特別研究員となった3名の方をご紹介します。

#### 研究課題

## 平安時代後期和歌文学

#### 柏木 由夫 大妻女子大学 名誉教授



業を始めたところである。大きく変え るところはないが、30年の間に研究 が進み訂正の必要がある箇所につい ての漏れないチェックが大きな課題。

時代的には、この『金葉和歌集』か ら100年ほど遡った頃の歌人である 道命阿闍梨という人物の私家集の注 釈を大妻女子大学文系紀要に連載し ているが、本年度分が第10回になり、 最終回となった。この後、少し時間を かけて見直し修正すべきところを直 して、解説を付し『道命阿闍梨集全 釈』としての刊行をめざす。

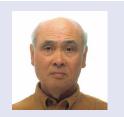
以上の2点は、今までに具体的に研



究してきた流れに従って進めるべき ことだが、もう少し幅を広げた範囲 で研究を進めなければならないこと がある。前述した『金葉和歌集』の撰 者で、平安時代院政期に入って最も 注目される源俊頼についての研究で ある。以後の平安末から鎌倉初期に至 り、藤原定家を中心とする和歌の革 新は、俊頼なくしては成し得なかっ たことである。俊頼の和歌分析を通 して、和歌革新のために志向された 方向性を追求し見えてくることを明 らかにすることが、今後の大きな研 究課題である。

## 社会の変化と子どもの身体発育に関する研究

#### 佐竹 隆 国立健康·栄養研究所客員研究員 元日本大学教授



ヒトの身体は神秘で全容を理解するのは非常に難しい。しかし、 形態学的観点から解剖を通していくらかはとらえることができる。 そんな観点から子どもの発育を理解するように努めてきた。幸い前 任校では形態発育学教室を主宰し 子どもの発育についての研究を進め、現在は「子どもの発育研究所」 を開設し活動を続けている。

ヒトの身体は遺伝的基礎に環境の影響が加わり形づくられる。発育学(Auxology)は身体の表現型を観察・分析して進め、子どもの時間経過による身体の変化をとらえることである。そして子どもの発

育の生物的を認識はなりと環境とこれを での生物的を認識はなりない。 をとこれを をとこれを をとこれを をといるでは をといるでは をはいるでは をでいるでする。 をでいるでする。 をでいるでする。 をでいるのかのでする。 をでいるのかのでする。 をはいるのかのでする。 をはいるのかのでする。 をはいるのかのでする。 をはいるのででする。 をといるのでででででででででででででででです。 をといるのでででででででででででいる。 をいるのででででででででででででできるのである。 できるのでででする。

世界各国において代表的な身体

計測項目は、身長、体重でその記憶は、身長、体重でその記憶にこれるの計画の子を保健統計のでは、多くの国にこの子があり、のではないであるの書境の変心がものでであるの書境の変心がものでである。今日はは、子どのがなど、今までがはなど、今までがないがある。といるの生物によりにはないる。

#### 研究課題

## 新聞統合 一戦時期におけるメディアと国家一

## 里見 脩 元大妻女子大学教授

政治記者を20年余務め、己の 軌跡を、苦さを込め検証したく退 社し、東京大学大学院学際情報学 府へ、博士課程満期退学し研究者 の道へ。専門はメディア史、学位 取得論文の主題である「戦時期の メディアと国家の関係―戦時期の 情報空間」に引き続き取り組んで いる。

「戦時期」という時代は、敗戦という悲惨な結末を迎えただけに、暗いイメージが付き纏う。戦時期の情報空間に関する研究は、権力を掌握した軍部が新聞を中心としたメディアを厳しく抑制すると共に国民を戦争同調へと駆り立てる装

置として活用した、即ち国家とい う政治権力を加害者とし、メディ アを被害者というステレオ・タイ プ構図で把握する分析が一般的に なされている。だが検証すると、メ ディアは進んで「報道報国」という スローガンを掲げ、総体として業 界挙げて、同調集団内の忠誠を競 い合う戦時体制形成の参加者とい う、被害者と称するには「不都合な 事実」が浮かんでくる。それは、こ うした分析枠組みでは戦時期の情 報空間の実相を把握できないこと を示している。そうではなく、「国 家という上からの操縦と、メディ アの下からの能動的参加という両



方の契機が絡み合いながら一体化 した空間」という分の言語 になずした空間」という分の言語 になず現えるべきであろう。加え には確かだが、統制されるした のメディア自身が立案、実施した もの配置、社内持ち株制など言論 がの産物は現在に至るととは のの産物は現在に至るとは、 にであるという言を ののでいる。「歴史を語るという言を ののでいる。「歴史を語るという言を ののでいる。」という言を ののでいる。

## 電子書籍「Otsuma eBook」

人間生活文化研究所では、電子書籍の出版を行っています。電子書籍ならパソコン、タブレット、スマートフォン等に ダウンロードして、いつでもどこでも手軽に読むことができ、本棚のスペースをとらず、色あせることもありません。

また、印刷・製本・輸送費など、出版にかかる費用を大幅に削減することができます。欠品・絶版になるリスクもありません。出版された書籍にはISBNが付与され、ウェブサイト「Otsuma eBook」より世界中に発信されます。

# Recommended Titles » http://www.ihcs.otsuma.ac.jp/ebook/

## 『大妻女子大学蔵本で読む くずし字』(大妻女子大学テキストシリーズ)



〈編者〉小井土 守敏 君嶋 亜紀 倉住 薫 髙木 元

〈発行〉2018年12月20日 〈形式〉PDF 〈ISBN〉978-4-907136-19-2 小井土 守敏 大妻女子大学 文学部 日本文学科 教授





文学部日本文学科では、くずし字を読む授業「変体仮名読解」が必修科目となっています。このこと自体がカリキュラムとして非常に特徴的なのですが、今回あらためて、学科の教員で協力して使用テキストもオリジナルで作成しました。大妻女子大学が所蔵する貴重書のなかから、抜粋して写真を収め、略解題を付しました。表紙デザインに用いているのは、巻子本『古今和歌集』の表紙で、ちょっとした図録のような、綺麗な本になっています。なお、2019年秋に大妻女子大学博物館にて、この本所収の原典を主とした特別展を開催し、多くの方にご来館いただきました。

## 『スカウティングを科学する』



〈編者〉田中優 黒澤 岳博

〈発行〉2019年5月21日 〈形式〉PDF 〈ISBN〉978-4-907136-21-5 田中 **優** 大妻女子大学 人間関係学部 人間関係学科 教授





2022年に100周年を迎える日本のボーイスカウト教育であるが、わが国のボーイスカウト教育の教育効果に関する実証的研究は非常に少ない。そこで、2017年、「スカウティングを科学する」ことを目的に、歴史学、心理学、教育学、社会学など、ボーイスカウトについて様々な視点から研究をおこなっている研究者が集まり、スカウティング教育研究プロジェクト(Scout Education Research Project: SERP)を開始した。本書は、2018年度ボーイスカウト全国大会全国スカウト教育会議(テーマ集会)において、教育研究プロジェクト『スカウティングを科学する: Part 2』として開催されたシンポジウムの記録である。

## 『呉昌碩と日本人士』



〈著者〉松村 茂樹

〈発行〉2019年7月5日 〈形式〉PDF 〈ISBN〉978-4-907136-18-5

松村 茂樹 大妻女子大学 文学部 コミュニケーション文化学科 教授





詩書画印四絶をもって「中国最後の文人」と称せられる呉昌碩 (1844-1927) は、多くの日本人士と交流しています。本書は、呉昌碩と交流した日本人士九十六名を、接点を有した年代順に取り上げ、その交流の実態を考察したものです。彼らは、呉昌碩の人と作品への尊重と愛好を共有する者として、「書画文墨趣味ネットワーク」を形成し、当時の欧化一辺倒とも言える風潮のアンチテーゼとなっており、そこに政治家や財界人も加わっていたことから、大きな影響力を有していました。本書では、そのような側面をも明らかにしようと試みました。

#### 新刊紹介

## 『 図録 東南アジア狩猟採集民の生活と子どもの発育発達 』







大澤 清二、下田 敦子、 吉村 桃実 編著 \*写真 淺岡 敬史 〈発行〉2020年1月10日 〈形式〉PDF 〈ISBN〉978-4-907136-23-9 〈検索キーワード〉 Otsuma eBook 図録 狩猟 採集 ムラブリ サロン https://www.ihcs.otsuma.ac.jp/ ebook/book.php?id=66

#### ■ 図録で見る博物館展示

半年にわたり、人間生活文化研究所が主催した特別展「東南アジア 狩猟採集民の生活と子どもの発育発達」にはおかげさまで多くの方々 にご来場いただきました。大変ありがとうございました(大妻女子大 学博物館来館者統計2,579人1日平均22人)。終了後も、この図録を ご覧いただき、サロンやムラブリの人々の生活に思いを馳せていた だくことができれば幸いです。図録に掲載されている展示資料の写 真は、写真家淺岡敬史氏によるものです。現資料とはちがったおもむ きをお楽しみください。

\*図録の写真をお願いした写真家 **淺岡敬史**さん (1950年生まれ)

#### 主な著書

「ヨーロッパ陶磁の旅」(中央公論新社)、 「ヨーロッパ陶磁の旅物語」(グラフィック社)、 「ヨーロッパ洋食器の旅」(リブロポート)、 「南仏プチホテルの旅〜プロヴァンス編〜」(東京書籍)、

淺岡敬史 寫眞文庫 更新中

URL https://jpmuseum.com/about.html

「フランスの職人たち」(東京書籍) ほか多数。

### ■ 2,579人目のお客様

残暑厳しい2019年9月15日、展覧会は最終日を迎えました。最後にご来館いただいた記念すべき2,579人目のお客様はお近くにお住いの奥田四郎様(93歳)でした。奥田さんは大東文化大学で化学の教鞭をとっていらしたそうです。この展覧会を通じて地域の方々と交流する機会を持つことができました(右は大澤清二人間生活文化研究所長・博物館長)。



#### 展覧会は海を越えて

#### ミャンマー国営放送局よりミャンマー全国に放送されました

開催期間中にはNHKワールドジャパンの取材があり、その内容は2019年9月1日、8日に日本とミャンマーで放送されました。これらの放送は2020年9月8日までアーカイブでご視聴いただけます。

#### ■ 9月1日 放送分

https://www3.nhk.or.jp/ nhkworld/my/radio/listener/ 201909010600/



#### ■ 9月8日 放送分

https://www3.nhk.or.jp/ nhkworld/my/ondemand/audio/ listener-20190908-1/



## ■ 展示資料のこれから

展覧会で展示したミャンマーのサロンの資料 (33点、個人蔵) は、ミャンマーの民族の伝統文化保護のために、現地にお戻しすることにしました。旧首都ヤンゴンの郊外に民族省が運営する民族村 (アウトドアミュージアム) があります。サロンの展示エリアに寄贈する予定です。

ムラブリの資料、その他、民族資料についても、急速に消失しつつある現地の民族の伝統文化を保存、保護するために 役立てたいと考えています。

## オンラインジャーナル

#### 『人間生活文化研究: International Journal of Human Culture Studies』



本誌では「人間の生活と文化」に関わる研究論文の投稿を随時募集し、これまでに300編以上を超える論文を掲載してきました。スコープは、被服学、食物学、児童学、ライフデザイン学、日本文学、英文学、コミュニケーション文化学、社会情報学、人間関係学、人間福祉学、比較文化学など広範囲にわたります。平成31年1月から縦書き論文の受け付けを始めました。

以下、一覧をご参照ください。なお、本誌は年間40万件程度のアクセスがあり、8万件のダウンロードがなされております。

【ご案内】本誌「原著論文」「短報」のピア・レビューについて

査読付き論文 (原著論文、短報) の投稿時に、投稿者は査読候補者3~5名を推薦できます。但し、同一研究室の研究者や師弟関係にあたる研究者などの利害関係者を除きます。推薦された査読者は査読者選定の参考にします。



投稿無料

随時募集

投稿資格 制限なし 原著論文 短報は 査読あり

字数制限 なし 投稿については下記をご覧ください。 http://journal.otsuma.ac.jp/

#### No.29 (2019) 掲載論文一覧

#### ■ 原著論文

論 題	著 者
主観的健康感と腸内細菌叢の関連性に関する研究	福島(平川) あずさ (大学院、公益社団法人生命科学振興会)
Questioning Whiteness: "Who is white?" —A case study of Barbados and Trinidad—	Michiru Ito (International Center)
Characteristics and outcomes of out-of-hospital cardiac arrest in Japan —All-Japan utstein registry including information on the location of arrest—	Kosuke Kiyohara (Faculty of Home Economics) et al.
昆布の軟化を亢進する野菜成分の同定	山岸 あづみ (新潟県立大学) ほか
現地校・補習校の宿題支援における家族間の調整過程 一独日国際家族の事例に基づいて一	柴山 真琴(家政学部)ほか
自閉症スペクトラム児と保護者の関係発達 一対人関係発達指導法 (RDI) による事例検討一	高橋 ゆう子 (家政学部)
ミャンマー連邦共和国における基礎教育学校の統合化に関する研究	牟田 博光 (人間生活文化研究所)
ミャンマー連邦共和国における学力達成度に影響を及ぼす諸要因に関する研究	牟田 博光 (人間生活文化研究所)

#### ■ 短報

論 題	著 者
e ラーニングのアプリを活用したブランドアクティベーション	井上 俊也(キャリア教育センター)
青年女性を対象にした自己診断疲労度チェックリストの妥当性の検討	小林 実夏(家政学部)ほか

#### ■ 報告

iii	者 者
平安中期の「柳のまゆ」考	糸賀 園華(株式会社クルーク)
全国学力・学習状況調査から見た特別活動 一新学習指導要領と学力向上の観点から一	熊野 真司(練馬区立練馬中学校)ほか
低骨格筋量の若年女性に対する乳酸発酵卵白たんぱく質飲料の効果	髙波 嘉一(家政学部)
日本語発表練習における効果的なフィードバックの研究	杉本 亜由美 (金沢学院短期大学)
福井県若狭地域でのキクを活用した産学官連携による教育活動の展開	水島 智史(福井県立若狭東高等学校)ほか
スヌーズレン創始者アド・フェアフール氏の思想に関する一考察	藤澤 憲(和歌山さくら支援学校)
ボーイスカウトにおけるキャンプの教育効果について 一スカウトがキャンプで得た成果,および,興味・関心の変化について一	田中優(人間関係学部)
小鹿野歌舞伎における三番叟について $(2)$ $-$ その歴史的背景をさぐる $(2)$ -	安倍 希美 (北里大学)
これからの時代に求められる高等学校のキャリア教育 一高校生の「生き方」を支えるために一	川合宏之(流通科学大学)
高等教育におけるオープンコースウエアの実践と効果	市川 博(家政学部)ほか
肢体不自由児の給食・摂食指導に関する基本事項	藤澤 憲(兵庫教育大学大学院連合)
「計画性」という希望 ―学校建築研究における西戸山小学校への評価をめぐって―	牧野 智和 (人間関係学部)
Understanding mixed emotions and moral emotion attributions in children aged 5-6 years	Mari Hasegawa (Yokohama City   University)

論題	著 者
講義における履修生の状態認識システムの試作と評価	松田 晃一(社会情報学部)
小学生における立位姿勢と歩数との関係 一2年生の場合一	厚東 芳樹(家政学部)ほか
スタンフォード大学東アジア図書館蔵「集古画本〔読本挿絵集〕」の書誌学的研究	髙木 元(文学部)
「海育」の取り組み:小学校における食と連携した新たな海洋教育の提案	細谷 夏実(社会情報学部)
敬語教育における効果的なアクティブラーニングの研究	杉本 亜由美 (金沢学院短期大学)
高齢者福祉における介護の質に関する一考察 介護の質に関する先行研究レビュー	古市 孝義(人間関係学部)
中国茶书作者生平统计分析	趙 方任(国際センター)
唐宋时代"添加茶"文化研究	趙 方任(国際センター)
唐宋时代之花茶文化分析	趙 方任(国際センター)
保育所栄養士への教育的支援の検討 一新任栄養士の仕事上の悩みに着目して一	鎌田(久子(短期大学部)ほか
「情報」を教材として扱うことの可能性 一働く場とジェンダーをめぐって―	井原 あや(文学部)
カリブ海地域におけるイスラム社会の形成と現況	伊藤 みちる (国際センター)
日本語発表練習におけるピア・レビューに関する調査報告 一日本人学生を対象として一	杉本 亜由美 (金沢学院短期大学)
"多民族共生社会における中国系同郷組織とアイデンティティ ―トリニダードの中国系市民に関する一考察―"	伊藤 みちる (国際センター)
探究からケアへ ― 「総合的な学習の時間」の再評価についての一考察―	高野 成彦 (教職総合支援センター)
"臨時災害放送局に求められるコンテンツと地域メディアとしての役割 一「りんごラジオ」放送記録分析から一"	松本 早野香 (社会情報学部)
手作り教材の制作と教育実践 ― 一人ひとりの「できること」を広げる取り組み―	生田 茂(社会情報学部)ほか
宋代饮茶文化美学意识研究	趙 方任(国際センター)
医薬品製造工場における洪水対策の一例 一医薬品の安定供給のために—	数土 武一郎(同仁医薬化工株式会社)ほか
"精神科臨床心理実習における教育目標と実習生の学び 実習記録のテキストマイニングから"	古田 雅明(人間関係学部)ほか
The American Frugal Housewife に於ける家事仕事の意義	西田   梨紗(大正大学)
中国蒙古族饮茶习俗研究	趙 方任(国際センター)
Development of supported employment in Malaysia	Yeo Swee Lan (Enabling Academy, Gamunda Foundation) et al.

#### ■ 資料

論題	著 者
"新約聖書「ヤコブの手紙」にみとめられる裏返し構造 一「物語」とはいえないテキストの事例一"	大喜多 紀明 (滋賀民俗学会)
〈翻刻〉『伊勢軍記』	小井土 守敏(文学部)
翻刻 北村喜八作「ユージン・オニール」	山名 章二 (大妻女子大学)
河川における魚類相モニタリングを目的とした環境 DNA メタバーコーディング法の評価	小関 右介 (家政学部)
新約聖書に収納された「ピレモンへの手紙」にみられる裏返し構造	大喜多 紀明 (滋賀民俗学会)
緑地保全活動による生理的影響の検証の試み	甲野 毅(家政学部)
看護師と安全文化	加藤 淳(日本福祉大学大学院)
迷信打破運動と心性の制限 一述語論理の観点から一	大喜多 紀明 (滋賀民俗学会)
看護師長のサーバント・リーダーシップ	加藤 淳(日本福祉大学大学院)
ヨハネによる福音書の構造分析 一七つの「しるし」にみられる裏返し構造一	大喜多 紀明 (滋賀民俗学会)
特別支援教育実践における多重感覚環境活用の有効性と課題	藤澤 憲(兵庫教育大学大学院連合)ほか
女性アスリートの利用可能エネルギー不足アセスメントツールの開発と妥当性の検討	小清水 孝子 (家政学部) ほか

## 『人間生活文化研究: International Journal of Human Culture Studies』 の投稿査読状況

オンラインジャーナル『人間生活文化研究』は、平成24年の創刊以来、300編以上の「人間の生活と文化」に関わる研究 論文を迅速に掲載し、世界に発信し続けております。

平成24年6月から令和元年12月までの査読付き論文「原著論文」「短報」、査読なし論文「総説」「報告」「資料」の<u>論文</u> 採択率と投稿受付から掲載決定までの平均期間は右の通りです。

なお、投稿された論文に対しては編集委員会を開催し、査読なし論文に ついても、編集委員会の意見に基づいた修正などをお願いすることがあ ります。

研究成果の発表、公開の場として、是非今後もご活用ください。論文 のご投稿をお待ちしております。

	採択率	掲載決定までの 平均日数
<b>査読付き論文</b> 原著論文・短報	63.4%	111.0⊟
査読なし論文 総説・報告・資料	92.4%	17.2⊟

#### シリーズ 「特別研究員 (Senior researcher) - 研究成果の紹介」 1

## 『図説 日本の温泉 170温泉のサイエンス』

日本の源泉、温泉地の科学的解説書を上梓

大妻女子大学名誉教授 人間生活文化研究所特別研究員 井上 源喜



一般社団法人日本温泉科学会は創立80周年 を記念して、朝倉書店から表題の本を出版しま した。温泉関係の図書は日本人が温泉との関わ りが深いということもあり多数出版されていま す。温泉文化、温泉地紹介、温泉旅行、温泉と健 康、温泉と美容などです。本書はこれらの著書 とは異なり、従来まったくなかった源泉や温泉 地を中心とした科学的研究情報をまとめたも ので、本学会による温泉科学の入門書と位置づ けております。ビジュアルな温泉地の科学的解 説(地形、地質、水文、物理、化学、生物、工学 等)で文献をつけ、読者が原文をフォローでき るようにしました。

温泉地の選定に当たっては、主要な温泉地ば かりでなく、温泉科学的に重要な温泉地、学会 会員の研究フィールドなどを考慮しました。そ のため、学会会員の研究活動地域に偏りがある ため、都道府県により掲載温泉地数は大きく異 なります。しかし、都道府県に少なくとも1カ所 の温泉地を掲載することとし、掲載した温泉地 数は170カ所になります。本書の執筆者は77名 に達しております。

本書が温泉科学、地球化学、陸水学、地下水学、 水文学、地熱学、火山学、温泉工学などの地球科 学関連研究者、学生、高校・大学図書館、公共図 書館、行政担当者、温泉経営者、温泉 愛好家 などで活用され、温泉研究者や温泉愛好家の増 加につながれば望外の喜びです。



書名:『図説 日本の温泉 170温泉のサイエンス』 一般社団法人日本温泉科学会監修 編集委員長:井上源喜 朝倉書店刊 ISBN: 978-4-254-16075-8 C3044

#### 井上 源喜(いのうえ げんき)

大妻女子大学名誉教授(平成30年3月まで社会情報学 部教授) 大妻女子大学人間生活文化研究所特別研究員、 一般社団法人日本温泉科学会理事(前会長)、公益財団 法人中央温泉研究所評議員、NPO法人日本土壤浄化法 ネットワーク理事他。専門は地球環境のサイエンスで、 温泉、湖沼、河川、土壌圏の研究など。1978年東京都立 大学大学院理学研究科博士課程満期退学 理学博士。 Geochemical features of the McMurdo Dry Valley lakes (in Physical and Biogeochemical Processes in Antarctic Lakes. Antarct. Res. Ser. 59 (Amer. Geophys. Union), 地球環境変動の科学ーバイカル湖ドリリングプロジェクト (古今書院)、宇宙・生命・社会 137億年のサイエンス(開 成出版)。米国が南極大陸の1つの池にMatsumoto Pond 旧姓)と命名(1998)、2007年有機地球化学会賞(学術賞)、 環境大臣表彰(2013)。



#### 大妻女子大学人間生活文化研究所

〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地 大妻女子大学図書館棟6階 Tel: 03-5275-6047 Fax: 03-3222-1928 E-mail: info@o-ihcs.com

HP: http://www.ihcs.otsuma.ac.jp/

